

- 10月の米景気先行指数は市場予想を上回り、3か月ぶりの高い伸びとなった。米エコノミック・サプライズ・インデックスは11月に入りプラスに転じ、足もとはおよそ5か月ぶりの高水準に。
- 複数のFRB幹部は12月のFOMCで資産買い入れ縮小のペースを速める議論が持ち上がる可能性を示唆。一方、米10年国債利回りは足もとでもみ合いとなっており、「ずれ」がみられる。

米景気先行指数は予想を上回り3か月ぶりの高い伸び

18日に発表された10月の米景気先行指数は前月比+0.9%と、市場予想の同+0.8%（ブルームバーグ集計）を上回り、3か月ぶりの高い伸びとなりました。

同指数は全米産業審議会（コンファレンス・ボード）が消費財受注や長短金利格差など10種類の指標を基に算出しており、景気の山に対しては9～10カ月程度の先行性があるとされています。

内訳をみると、新規失業保険申請件数や住宅着工許可件数、米供給管理協会（ISM）新規受注指数など大半の項目が上昇しました。

米経済指標は足もとと良好な内容

エコノミック・サプライズ・インデックスは、シティグループが経済指標と事前の市場予想とのかい離を指数化したものです。同インデックスは事前の市場予想を上回ればプラス方向に振れ、下回ればマイナス方向に振れます。

同インデックスは今年7月末以降、マイナス圏での動きが続いていましたが、11月に入りプラスに転じ、足もとはおよそ5か月ぶりの高水準となっています。10月のISM非製造業景気指数や消費者物価指数（CPI）、小売売上高などが市場予想を上回ったことを反映するかたちとなっています。

資産買い入れ縮小のペースが速まる可能性も

CPIの上昇や良好な経済指標などを背景に物価上昇期待（予想）が高まっており、市場参加者のインフレ期待（予想）を表す指標の1つである、ブレイク・イーブン・インフレ率（BEI）は、10年国債でみた場合、足もとは2005年3月以来、およそ16年ぶりの水準まで上昇しました。

こうしたなか、クラリダ副議長など複数の米連邦準備理事会（FRB）幹部は12月に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）で資産買い入れ縮小のペースを速める議論が持ち上がる可能性を示唆しました。

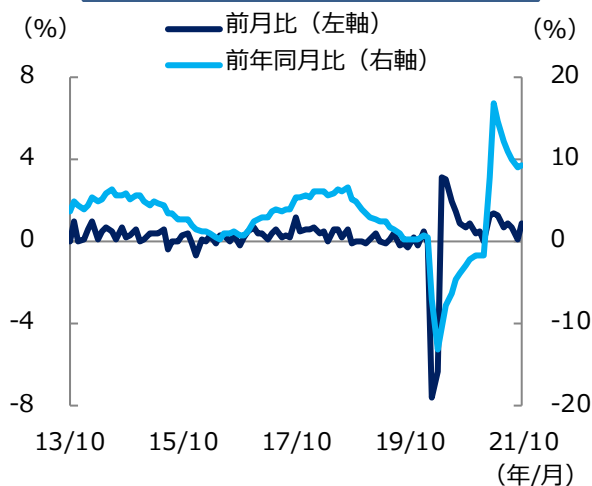
一方、米国長期金利は足もとでもみ合いとなっています。米10年国債利回りは10月21日におよそ6か月半ぶりに1.70%台へ上昇しましたが、その後はおおむね1.45～1.65%の範囲で推移しています。

このように、良好な経済指標や正常化を進める金融政策の方向性と比べ、米10年国債利回りの動きには「ずれ」がみられ、今後の動向が注目されます。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

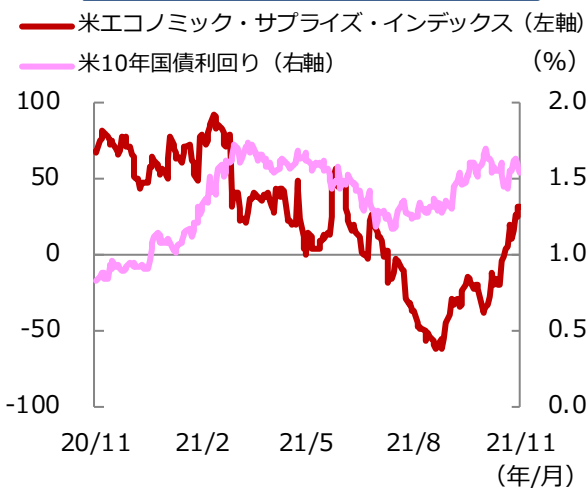
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

米景気先行指数の推移



※期間：2013年10月～2021年10月（月次）

米エコノミック・サプライズ・インデックスの推移



※期間：2020年11月19日～2021年11月19日（日次）

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【指数の著作権等】

- ・ エコノミック・サプライズ・インデックスはシティグループ・グローバル・マーケット・インクが発表する指数です。